

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990700045		
法人名	(株)はるす		
事業所名	グループホームはるすのお家・西吉野(うぐいす)		
所在地	奈良県五條市西吉野町城戸430番地		
自己評価作成日	平成24年5月8日	評価結果市町村受理日	平成24年7月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念である「温かい笑顔あふれるお家」を前提に職員が一人ひとりの利用者様の思いに寄り添い又、理解し、それを職員間での共通理解と結び付けチームケアにて日々の支援に取り組んでいます。住み慣れた地域で利用者様はもちろんの事、ご家族様、地域の方々と生活に関わる全ての人が共に暮らしを支えあうお家であるようにと日々力を注いでいます。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=29
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問入浴介護を中心とした法人事業のこれまでの取り組みの中で、介護サービスを総合した高齢者総合福祉施設の一つとして開設されたホームです。「楽しく過ごせる場所づくりを重視した支援」を理念として、本人が毎日楽しく過ごすためのケアとはどのような暮らしかを、職員一同は常に、本人の立場に立って追求されています。実際、ケアは大変きめ細かく、さまざまな工夫や配慮、研究が見られます。
自然豊かな山間地域に立地し、草刈りや清掃の他、地域の行事に積極的に参加したり、ホームの行事に地域の人を招待すると共に、普段の暮らしの中で、各種ボランティアや近隣の人たちが遊びに来たりする間柄が作られる等交流が盛んです。運営推進会議を活かした取り組みやアンケートの実施、意見箱の設置等のサービスの質の向上への取り組みに加え、医師による定期的な訪問診療等手厚い医療体制が整い、利用者や家族の安心と信頼関係が構築されている等、市を始め、たくさんの人と地域資源との関係を築き、それらに支えられています。職員と家族の信頼関係、地域の方とのふれあいが相まって、温かく笑顔あふれるお家作りを目指し支援されているホームです。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成24年6月12日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ会議などでも理念を基に行い、日々のチームケアにと活かしている。	楽しく過ごせる場所づくりを重視した理念とされています。日々のサービスの提供場面を振り返り、理念をケアに反映されているかを確認する等実践につながるよう、取り組みがなされています。	認知症になっても自分らしく有する力を発揮しながら、地域で暮らし続けることへの支援である地域密着型サービスの意義を踏まえた理念づくりを期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの大正琴や婦人会コーラス団体、近隣の幼稚園、小学校、中学校の慰問を受けるなど、地域の交流の場としての役割を持っている。	草刈りや清掃の他、地域の行事に積極的に参加したり、ホームの行事に地域の人を招待すると共に、普段の暮らしの中で、各種ボランティアや近隣の人たちが遊びに来たりする間柄が作られている等交流が盛んです。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族、自治会長、行政が参加されている運営推進会議では、認知症であっても適切に支援することで住み慣れた地域で生活できることを説明させて頂いています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事、入居者数の増減や日々のサービス状況等を説明し、緊急対応で利用者様の生活を守っていることを説明。	会議は、家族、地域の代表者、民生委員、市担当者や地域包括支援センター職員等の参加の下、2月に1回定期的開催し、利用者やサービスの状況、評価への取り組みについて報告し、話し合いを行い、そこでの意見をサービスの質の向上に活かされています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して現状の支援内容は伝えさせて頂いています。日頃から連絡を密に取り、協力関係を築いている。入居受入れ時は、介護保険課の職員と連携をとりながら、勧めています。	市担当者に対して、あらゆる機会に、ホームの実情やケアサービスの取り組みを伝え、相談事項に応じて実直に対応してもらえるような関係が作られています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	総合福祉施設での虐待・身体拘束委員会を設置しており当事業所からの代表委員も定期的な研修時には、参加し又、代表委員が当事業所現場に研修内容を伝えている。	法人全体で虐待・身体拘束委員会を設置し、全ての職員が、身体拘束の弊害を認識し、身体拘束をしないケアを実践されています。適切な見守りの下、昼間は玄関を施錠することなく自由に入出入りできるようにされています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	総合福祉施設での虐待・身体拘束委員会を設置しており当事業所からの代表委員も定期的な研修時には、参加し又、代表委員が当事業所現場に研修内容を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当事業所では、実際に権利擁護や成年後見人制度を利用されている利用者様は、おられず職員への周知は、難しい状態であるが会議等では説明している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、退去、改定の際には、十分な説明を行った上、記名捺印をして頂き、了解、理解を得ています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にも参加して頂いています。又、モニタリングや職員との対話から要望を聞くようにしている。	利用者や家族等の満足度を高めサービスの質の向上を図るため、アンケートの実施や意見箱を設置する他、面会時、電話等の機会を捉え気軽に意見や要望を出してもらえるような雰囲気づくりに留意されています。出された意見等は職員間等で検討し、その結果を報告し、運営に反映されています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を月1回設け、スタッフからの意見を聞き、日常のケア支援向上に活かしている。	随時、申し送りや月1回スタッフ会議等、話し合う機会を設け、意見を聞き反映されています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	回覧で研修の情報を回してモチベーションを上げるようにしている。又、職員の向学心を応援するスキルアップ研修などを実施している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修はもちろんの事、それぞれに必要なと思われる社外研修を進言している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	五條市介護保険事業所協議会に加盟し、他の事業所の見学や地域密着型サービス部会に参加し施設相互間のネットワーク作り、サービス向上のための情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様との会話から出来る事、少しの支援があれば出来そうな事に気づき安心して生活していけるように支援しています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が望んでいる本人様を含んだ生活とはどのようなもので、何がそれを難しくしているのか、どのような支援が必要なのかを明確にして納得して頂いています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の困っていることを解決するサービスを実施している。状況によって、かかりつけ医や専門医の紹介などの対応にも努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様には、施設内での役割として洗濯や片付け、新聞の受取、食器洗いなどの自立支援につながるお手伝いをして頂いています。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の出来る事は、進んでやって頂き、事業所と一緒に本人様を支える関係を築いています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設は、施設することなく、利用者様の家族や友人がきて頂きやすい運用を行っています。家族様の面会も定期的にあります。	地域に暮らす馴染みの知人・友人等との交流ができるよう支援されています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個々の社会性を理解し、場面に応じた支援を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了件数は0件ですが、今後の課題として相談や支援に努めていきたいです。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団の中の一人ではなく、個々の思いに沿った関わりができるようにと努めています。行動を強制することなく、自然な状態で一日一日を過ごして頂いています。	日々のかかわりの中で、声を掛け、把握し、言葉や表情などからその意思を推し測ったり、それとなく確認するようにされています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族様だけでなく、個人情報保護に注意し他事業所との連携をとり、生活歴や過去の暮らしをアセスメントし、介護サービスに活用しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的なその人の暮らし方を知り、心身状態による影響を考慮し支援の調整を行っています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場のケアプランを介護職全員で作って行く為に他職種の意見も仰ぎながら現状にあったプランを立てている。	本人や家族の意向を確認し、関係者の意見を参考に、職員間でカンファレンスを行い介護計画を作成されています。状態に変化がある時はもちろん、定期的にモニタリングを実施し、それに基づき見直し、現状に即した介護計画を作成されています。	介助項目を主とした介護計画を作成されていますが、今後更に、利用者の視点に立って地域でその人らしく暮らし続けるために、必要な支援を盛り込んだ個別の具体的な介護計画の作成が望まれます。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、日々個人ケース記録記載とし、毎日、朝・夕のミーティングを実施し又、職員間での申し送りノートを活用し情報の共有を行い、日々回覧し、利用者様一人ひとりの変化に対応しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれたニーズに対し柔軟な対応ができるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所との関係を活用し、本人様が安心して暮らしていけるように支援しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様のかかりつけ医とを密に連絡をとり、本人様と家族様の状況に応じて変化していく心境にも気付けて情報を共有する関係を作るようにしています。	本人や家族が希望するかかりつけ医とし、基本的には、家族同行の受診となっていますが、状況に応じて職員も同行されています。普段の様子等の情報を伝え、受診結果についても共有されています。医師の定期的な訪問診療が受けられるよう支援され、利用者や家族の安心につながっています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設専任の看護師配置はないが、かかりつけ医の看護師と服薬管理調整し定期往診時には、入居者様の状態等連絡相談し、連携を図っています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調不良や認知症症状に留意して看護師、主治医と相談し情報交換などを行っています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時及び必要時には、家族様と詳細を話し合い方針と方向性を立てるように努めています。	医療連携体制が十分整っていないことから、契約時等でできるだけ早期から重度化した場合や終末期のあり方、ホームが対応し得る最大のケアについて説明し、本人、家族等、かかりつけ医等ケア関係者との話し合いを繰り返し、その時々本人・家族等の意向を確認しながら、対応方針の共有を図るようにされています。今後は、体制を整えていくことを検討されています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修の機会を持ち又、日々の利用者様の状態に留意してミーティング等での申し送りを徹底しています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策避難セットは、事業所の所定箇所に設置して災害時には、持ち出し出来るように職員に徹底しています。避難訓練も消防署の指導を受け実施しています。	定期的に避難訓練等を実施されています。災害に備え、食糧や飲料水等の災害対策避難セットを備蓄されています。	災害はいつ起きるかわかりませんので、地域の協力体制を構築し、地域住民等の参加、協力を得ながら夜間を想定した避難訓練等を実施する等速やかな災害対策の実施が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護技術研修を実施し、介護を受ける側の気持ちを理解できるように指導しています。	人格の尊重やプライバシーを損ねない対応について、介護技術研修、スタッフ会議等で確認合い、人格の尊重に配慮した言葉掛けや、援助が必要な時も、さり気ないケアを心がけて対応されています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めてしまわない様に気を付け、本人様からの要望を引き出せるように努力しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい時間の流れや行動が出来るように希望を聞くようにしています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の趣向等に合わせて支援させて頂いてます。毎日、必ず化粧をされて日中を過ごされる入居者様もおられます。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、利用者様と一緒に頂いています。又クッキングレク等も実施し、職員だけが調理を行うのではなくできる方には、進んで調理や片付け等もして頂いています。	テーブル拭きや下膳等は利用者と職員が共に行い、ごはん以外は外部業者で調理したものを利用者と職員と一緒に食事されています。	ホームでの食事は単に栄養摂取だけでなく、利用者と職員と一緒に、メニューを考え買い物や調理し味わいながらその仕上がり具合等を話題に楽しく食す支援が求められており、今後はこうした協働作業での利用者の力の発揮や楽しく食べること等食事への関心を高める更なる工夫を期待します。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によって作られた栄養バランスのとれたメニューにて提供させて頂き、本人に出来る事まで管理し過ぎないようにしています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア用品は職員管理させて頂き、自身でできる利用者様には、洗面台にて毎食後、口腔ケアをして頂いています。できない利用者様は、職員対応としています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	原則として利用者様にはトイレにて排泄をして頂いています。	排泄表を使用し、時間を見計らって誘導しトイレで排泄できるよう支援されています。確認や誘導はあからさまではなく羞恥心に配慮した支援をされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせた水分摂取確保や適度の運動量を確保できるよう心がけ支援しています。又、認知症の周辺症状のきっかけとなっていることも知り気を付けています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に添えるようにと午前、午後と入浴は行っています。	本人の意向に沿っていつでも入浴できるように支援されています。抵抗感のある人には、デイサービスの浴室利用での対応等工夫されています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自身から日中居室で休まれる方は、個々の習慣に合わせてますが、時間を見計らっておやつ、お茶などの提供にて起床しやすい状況セッティングに努めています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている服薬の薬事書ファイルを作り又、個別ファイルにも入れてあり服薬変更時には、その都度差し替えし理解に努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	他者の役に立っていると自覚できる機会や楽しいと感じる機会を提供できるように努め、苦手とすることを避ける配慮をしています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常生活に必要な支援はもちろんの事、外出を希望される利用者様は出かけることが出来るように支援しています。又、定期的に外出支援活動を実施しています。	利用者の希望に沿って、戸外での日光浴を始め、散歩、買い物・ドライブ等日常的な外出の他、家族の協力を得て、墓参り、法事等にも出かけられるよう支援されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、個別に金銭を所持する支援はしていません。お金を使う機会時は、職員支援のもと預り金での対応をしています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様に電話の利用を求められた場合は、施設設置の電話を使用して頂いています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過度な飾り付けなどは控え、施設っぽくならないような空間づくり、一人ひとりが違う不快の感じ方を知り工夫しています。	リビングは、適度に光が差し込み明るく、掃除が行き届き清潔感にあふれ、対面式キッチンや自然が望まれる大き目の窓等五感刺激や季節感にも配慮されている他、畳の間等利用者の馴染みのものを取り入れた設えにする等居心地よく過せるよう工夫されています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの位置等を状況に応じて変更し又、和室区間利用にて個々の希望に添えるようにと工夫しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が以前使っておられた家具、電化製品などを持ってきて頂いています。	写真やタンス、テレビ等の思い出の品々が持ち込まれ、それぞれの利用者が居心地良く過ごせるよう配慮されています。	一部持ち込みのない部屋が見受けられますが、ホームの居室の環境づくりは、自宅との違いによる不安やダメージを最少にするために、使い慣れた馴染みのものを傍に置いておく等、本人や家族と相談しながら工夫をすることが求められます。今後は、こうした観点での工夫を期待します。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過剰支援にならないように一人ひとりの力を把握し、出来そうな事 分かりそうな事にも注目し支援を行っています。		